

## ついに受入・派遣の再開！！

COVID-19のため2020年度から中止していた海外との往来が再開しました。

### インバウンド 外国人医療スタッフの研修受入

2022年8月脳神経外科医師を初めとして、2022年度は16カ国から光学医療診療部、第1外科、顔面口腔外科、アジア遠隔医療開発センター(TEMDEC)で計32名の研修受入を行いました。2023年度も4月初旬の時点で既に24名(小児科、脳神経内科、腎臓内科、総合診療科、眼科、泌尿器科、第2外科、第1外科、光学医療診療部)の受入が決まっており、研修受入の準備を進めています。

### インバウンド 病院見学

コロナ禍前の2019年度は300人を超えていた病院見学も2023年度より再開予定です。多くの問い合わせをいただいております。今後も増加することが予想されます。

日常的に英語でコミュニケーションを取り、海外の医療事情を知ることができる良い機会となりますので、ぜひ受入の検討をお願いいたします。診療科からのご相談やサポート依頼についても、いつでも受け付けておりますので海外交流センターまでご連絡をお願いいたします。



タイ / 外科



モンゴル・コロンビア・ブラジル / 光学医療診療部



ウクライナ / 口腔外科



ベトナム・ブータン・インドネシア・インド・マレーシア・ネパール / TEMDEC

### アウトバウンド 海外派遣

2022年7月を初めとして、国際プロジェクト(モンゴルでの技術指導)や多職種海外施設訪問など9カ国へ26名の派遣を行いました。



モンゴル / 内視鏡・外科(技術指導)

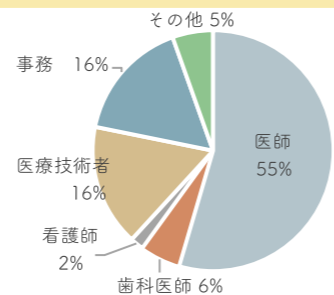


タイ / 医師・看護師・薬剤師・医療技術部・事務(施設訪問)

## 海外交流センター 2022年度報告

### 英語研修

2022年度は個別英語研修(4種類 8クラス 44名)・部署別英会話(2部署 11名)計55名に受講いただきました。オンライン形式で開催し、希望やレベルに合わせてSpeakingやListeningに特化した初級クラスからプレゼンテーションやディスカッションに対応した上級クラスを開講しました。九大病院スタッフであればどなたでも受講可能です。2023年度も5~6月に募集のご案内をする予定です。申込みをお待ちしております。



## バーチャルリアリティ技術の遠隔教育への応用

TEMDECでは、バーチャルリアリティ関連技術の医療トレーニングへの応用を検討しています。2023年2月には、光学医療診療部の協力のもと、国際青少年サイエンス交流事業さくらサイエンスプログラムで招へいたアジア6ヶ国(ブータン、インド、インドネシア、マレーシア、ネパール、ベトナム)からの遠隔医療技術者と、360度カメラを使用した内視鏡ライブデモンストレーションを実施しました。また3月には外科手術の技術を学ぶ上でのメタバースの活用に関するデモンストレーションも実施しています。バーチャルリアリティ技術の医療教育への応用にご興味がありましたら、是非ご相談ください。



360度カメラを使用した内視鏡ライブデモ



メタバースを用いた腹腔鏡手術のデモ

## アジア遠隔医療開発センター 2022年度報告

### 2022年度の主なプロジェクト

- ・モンゴル国における消化器疾患診療の人材育成(医療技術等国際展開推進事業)
- ・さくらサイエンスプログラム(JST:科学技術振興機構プロジェクト)
- ・遠隔医療相談
- ・アジア先端医療ネットワーク(APAN)医療ワーキンググループにおける多分野での遠隔医療教育プログラムの開催
- ・医療・デザインプロジェクト(九大病院と九大芸術工学部の共同プロジェクト)

43か国 380施設 176イベント  
新規接続施設 26か国143施設



モンゴルへの消化器セミナーや腹腔鏡手術ライブ配信

### 国際、国内、院内での様々な支援

- ・学会、研究会のオンライン開催への技術支援
  - 6月 第15回日本エビジェネティクス研究会年会
  - 6月 第39回日本胆膵病態・生理研究会
  - 11月 第23回日本口腔ケア協会学術大会
  - 11月 第74回九州精神神経学会 など 30件
- ・ライブ配信
  - 5月 The 3rd World Congress of GI Endoscopy (ENDO 2022)
  - 10月 Live Demonstration at Mongolia-Japan Hospital
  - 12月 The 36th International Workshop on Therapeutic Endoscopy など 5件

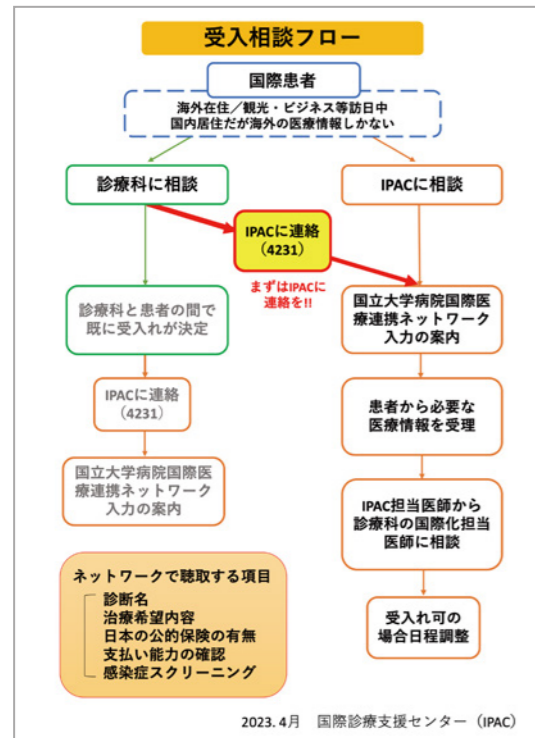


日本口腔ケア協会学術大会のオンライン配信をサポート



## 海外在住渡航受診希望者の受入体制

海外から診療に関する問合せがあった際は  
まずIPACにご連絡を！



## 国立大学病院国際医療連携ネットワーク

国立大学付属病院長会議の下、2012年に本ネットワークが発足されて以降、本院を事務局とし、IPACが国際患者の受入相談業務を担っています。2020年度以降は、COVID-19の影響により相談、受入れ共に減少傾向となりましたが、2022年度は顕著な増加を示しています。今後の急激な増加を見据え、現在業務の見直しを行っており、より安全かつ円滑な受入体制構築を目指しています。



国立大学病院国際連携ネットワークHP

## 海外遠隔医療相談

感染症拡大による入国規制、重篤な疾患で来日困難、治療方針決定や渡航受診前の相談希望等、海外の国際患者にとって遠隔医療相談は有効なアプローチの1つです。本院では2021年度以降、中国とのD to D遠隔医療相談を7件、モンゴルとのD to P遠隔医療相談を1件実施するなど、着実に実績を重ねており、海外の医師・患者からも高い満足度を得ています。

## 外国人患者受入れ医療機関認証制度(JMIP)

2022年12月、3度目のJMIP 外国人患者受入れ医療機関認証制度の受審を終え、2023年3月に再認証されました。3年毎の更新が必要であるため、今後は定期的な院内ラウンドの実施や早めの翻訳依頼を周知する等し、各所と連携し、日頃からの環境整備に努めます。



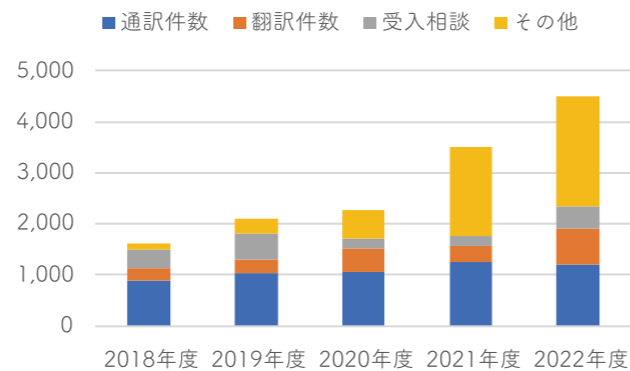
JMIP認証書

## 国際診療支援センター 2022年度報告

総実績4,504件:

通訳1,198件、翻訳713件、受入相談421件、  
その他2,172件(うち同意書関連955件)

- ・支援外国人患者出身国総数:52か国
- ・国立大学病院国際医療連携ネットワークで14か国から65件の相談対応、うち22名を受入。



## 国際医療部とは

国際医療部はアジアをはじめ世界における国際化拠点として医療・教育・研究のすべてにおいて国際・社会貢献を実現します。

## 組織体制

国際医療部は、国際交流促進担当の「海外交流センター」、国際遠隔医療教育ネットワーク構築担当の「アジア遠隔医療開発センター」、海外や国内の外国人患者受け入れ担当の「国際診療支援センター」を統括します。部長および副部長(専任准教授)を中心として、各センターには全員が英語のできるスタッフを配置するとともに、各診療科から選出された国際担当教員などと一緒に協力体制を築きます。

## 国際医療部 (iMed)



## 新メンバー



海外交流センター センター長  
**仲田 興平 先生**  
光学医療診療部 部長 准教授

2023年4月から海外交流センター(OVEX)センター長を拝命いたしました。着任以前もOVEXを通じて多くの海外交流の経験をさせて頂き、国際交流の重要性、そして楽しさを実感しておりました。COVID-19における水際対策も緩和され、今後医療もグローバル化が急速に進むと思われます。この流れに遅れることの無いよう積極的に国際交流を行っていきたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。



アジア遠隔医療開発センター  
海外交流センター  
**永吉 絹子 先生**  
臨床・腫瘍外科(第一外科) 助教

2023年4月より海外交流センター(OVEX)、アジア遠隔医療開発センター(TEMDEC)を兼任することとなりました。これまでもOVEXを通じた外国人医師の研修やTEMDECの支援による海外を含む他施設との遠隔会議・研究会などに携わってまいりました。今年度からも国際交流の起点となる国際医療部へ、より一層の貢献ができるよう尽力していきたく思います。宜しくお願いいたします。

## 編集後記

国際医療部 副部長 森山 智彦

今回も国際医療部だよりをお読みいただきありがとうございます。昨年最大の出来事は何と言っても外国人研修員受け入れの再開でした。コロナ以前は最大で年間90名近くの医療者を世界中から受け入れていましたが、2年半以上ぶりの受け入れ手続きに当初は我々も戸惑うばかりでした。しかし皆さまのご協力と熱心なご指導のおかげで、すべての外国人研修員は当院で充実した研修を行い、大変満足して帰国されました。本当にありがとうございました。当院は、昨年にNewsweek誌が発表したThe World's Best Hospitals 2021において全体の67位、日本で4位にランクされました。これからますます多くの研修希望者や遠隔での講演依頼、さらには外国人患者数の増加も予想されます。外国人への診療や教育、海外施設との共同研究などが円滑に運用できるよう、国際医療部のスタッフ一同で対応いたします。引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。



## 国際診療支援センター (IPAC)

T E L : 092-642-4231  
W E B : <http://plaza.umin.ac.jp/ipac>  
M A I L : bynkokusai@jimu.kyushu-u.ac.jp

